

令和元年度第2回食の安全・安心推進横浜会議リスクコミュニケーション検討部会	
日 時	令和2年2月25日（火） 午後3時～午後5時
開催場所	関内中央ビル 3階会議室
出席者	清水委員、海野委員、山岸委員、古野委員、西村委員、横田委員
欠席者	なし
開催形態	公開（傍聴者なし）
議 題	1 部会長選出 2 令和2年度 リスクコミュニケーション事業について
決定事項	1 部会長に清水委員が選出された。 2 リスクコミュニケーション事業についてシンポジウム形式で実施することとした。
【開会】 ○事務局	<p>皆様おそろいでございますので、定刻より若干早いですけれども、ただいまより令和元年度第2回食の安全・安心推進横浜会議リスクコミュニケーション検討部会を開会したいと思います。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>この部会では、食の安全・安心に関するリスクコミュニケーションの推進に関すること、それから、食の安全・安心の確保に関する広報・啓発に関すること、3つ目としましては、食の安全・安心の確保に関する情報の収集・提供の推進に関することを検討していただく場でございます。</p> <p>また、本日お集まりの皆様には、委嘱させていただいた任期が昨年12月からですが、この部会の委員として最初にお集まりいただく場でございますので、議事の初めに部会長の選出を行います。それまで、私が進行を務めさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>本日の委員の出欠でございますが、欠席者はありません。食の安全・安心推進横浜会議リスクコミュニケーション検討部会設置要綱第4条に基づき、委員の過半数の出席でございますので、会議が成立していることをご報告いたします。</p> <p>また、会議は原則公開となっております。本日の議題については、非公開に該当するものはありませんので公開とさせていただき、市民の皆様にはお知らせしましたが、本日の会議の傍聴希望者はありませんでした。</p> <p>なお、食の安全・安心推進横浜会議と同様に、会議における発言内容と委員の方のお名前が公開の対象となりますので、ご了承いただきたいと思います。</p>

<b>【議事 1】</b>	<b>部会長選出</b>
○事務局	<p>それでは、議事に入ります。初めに、当部会の部会長を選出させていただきたいと存じます。食の安全・安心推進横浜会議リスクコミュニケーション検討部会設置要綱第3条により、部会長は委員の互選で選任することとしております。皆様からご推薦等ございますでしょうか。</p>
○海野委員	<p>清水委員にお願いできればと思います。</p>
○事務局	<p>清水委員、よろしいでしょうか。</p>
○清水委員	<p>はい。私によければ引き受けさせていただきます。</p>
○事務局	<p>ありがとうございます。それでは、部会長に清水委員が指名されましたので、部会長のお席にお移りいただいてよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p style="text-align: center;">(部会長席移動)</p>
○事務局	<p>清水部会長、一言ご挨拶を簡単に結構ですのでお願いいたします。</p>
○清水部会長	<p>皆様、改めましてこんにちは。とんでもない、すごいウイルスが蔓延して、こんな中で会議が開かれるかはちょっと心配したのですが、無事に開催できるということで、ことしのリスクコミュニケーションについてこれから討議していきたいと思ひます。部会長を務めさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。</p>
○事務局	<p>ありがとうございました。それでは、ここからは清水部会長に進行をお願ひしたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
<b>【議事 2】</b>	<b>令和2年度 リスクコミュニケーション事業について</b>
○清水部会長	<p>それでは、議事を進行させていただきます。それでは議事の2番目ですね。令和2年度のリスクコミュニケーション事業について、事務局からご説明があればお願ひいたします。</p>
○事務局	<p>(事務局説明)</p> <p>事務局から大きいテーマとしては3つ、細かいものも入れると4つのテーマ候補を出させていただきました。こちらをもとに、委員の皆様で意見を出していただければと思ひます。以上です。</p>
○清水部会長	<p>ありがとうございました。今の説明に何かご質問ありますか。よろしいでしょうか。</p> <p>では、最初に時間帯のことを決めたいと思ひます。去年は午後開催でしたよね。アンケートで午前がいい、午後がいい、もちろん両方いらっしゃると思うのですが、どちらのほうがいいかというようなことは聞いていただいているのでしょうか。</p>
○事務局	<p>シンポジウムの開催時期はいかがでしたかという質問の中で、午前中のほうが出やすいという方や、11月の午後ですと終わり時間が夕方になって、外に出ると暗くて嫌だったという意見がありました。</p>
○清水部会長	<p>今まで午前中が多かったですからね。11月の4時過ぎの時間帯となるとかなり暗くなっているというのもあって、ほとんど午前中にしていたような気がします。午前中だと、最初か</p>

ら延びることを考えているわけではありませんが、12時半で一応終わるとしても、なかなかすっきりとこの時間にすばっと終われないので、会場の皆様にお聞きしながら5分、10分、ちょっと延長させていただいても1時までには終わるという形で、そのほうが、午前中のほうが時間はとりやすいかなという感じはします。午後のほうが出やすいという方ももちろんいらっしゃるのですが、その辺は皆様いかがでしょうか。何かご意見はありますか。特に古野さんと横田さんは今回初めて参加されるのですが。

○古野委員

午前10時から開催というので準備は全然問題ないわけですね。

○清水部会長

土曜日にやるものですから、市の職員さんには何か……

○事務局

前日の夕方から会場設営などはするので、朝からでも大丈夫です。

○古野委員

そうですか。ただ、こういう催しは2時間でできるようにした方がいいと思います。私も今まで出ているのですが、内容が多岐にわたっていて、確かにいろいろなものを聞きたいのだけど、結局ぐちゃぐちゃになって帰るみたいなところがあって、わからない者にとっては混乱して帰るだけになってしまうところもありますので、もう少しすっきりと充実した内容がいいかなと思います。

○清水部会長

わかりました。いかがですか。今のご意見を受けて。

○山岸委員

参加される方は女性が8割以上ですよ。年代層で考えると6割近くが70～80代ということですから、時間的に午前中だろうと午後だろうと余り影響されない人がほとんど参加されているというふうに読めるんですね。参加しやすかったという回答が80%近く出ているということで、これだったら午後のほうが、多少遅くなると暗くなるという要素はあるかもしれませんが、やはり皆さんが参加しやすいのではないのでしょうか。

あともう一つ、専門性のところが出てくると、聞いていてもなかなか理解しにくいというところがありますよね。だから、余り難しく絞っていくと、理解が逆に難しくなるのかなと。押さえるところはちゃんと押さえてみんなに伝えるという。例えばノロウイルスならノロウイルスのこういう危険性に注意してくださいということを正確に伝えれば、そんなに余分な行為を皆さんしなくて済むのかなと思います。情報の伝え方というのをもう少し、興味を持ってもらうということと、正確な情報を伝えるという、その辺を注意していただければいいのかなと思っています。

○清水部会長

まず最初に時間帯を決めたいと思うのですが、そうすると、山岸さんとしては午後のほうがいいのではないかということですか。

○山岸委員

参加された方が80%近く参加しやすいと出ていますので、午後のほうがいいのではないかと思います。

○古野委員

午後は1時半からって決まっているのですか。

○事務局

午前開催の場合は、10時から12時半が実際のシンポジウムの時間です。元年度よりも以前は全部午前中にやっております、10時から12時半。昨年は、今までずっと午前中だったので、午後にしてみて入りがよくなるかどうかということで、午後にやってみた。事前の予約状況は満席の250名だったのですが、なぜか当日キャンセルが多かったという結果でした。

○古野委員

13時スタートはできるのですか。

○西村委員	13時半から16時と書いてあるのですが、例えば13時から15時半というのはどうなのかなと。
○事務局	それもできます。会場を押さえていますので。
○西村委員	そうですね。3時半に終わるとなると、行こうかなという方も増えるかもしれない。
○古野委員	もし午後だとしたら30分前倒しするほうがいいかなと思います。 こういう会議というかシンポジウムというのは、基本的に午後にやったほうがいいのかと思います。午後、お昼食べて眠くなる方もいるのですけれども、ちょっと満腹感の中で穏やかな気持ちで聞いていただいてもいいのかなと私は思います。
○清水部会長	そういうご意見が多いですが、いかがですか。
○事務局	先ほどご意見があったように、12時半受付開始で13時スタート15時半も十分可能ですし、さらに30分早くもやってやれないことはありません。会場はとれていきますので、時間をずらすのは、事前にアナウンスしておけば大丈夫でございます。
○西村委員	何となく心理的な問題なのですが、午後という13時から始まるという感じだから、受付がちょっと30分前倒しになる。
○清水部会長	12時半から受付が始まり、13時から15時半までという時間でいかがですか。
○海野委員	1つの意見としてなのですが、プライベートの予定もと考えると、このような勉強会は午前中にぱっと終わらせて午後はあけておきたいなとも思ったりもします。先ほど山岸さんがアンケートでは80%の方が出やすいと言っているとおっしゃったのですが、これそのものが午後にお出になられた方に対するアンケートですので、どうしても午後に偏るのかなという感じがしました。
○清水部会長	そうですね、今までほとんど土曜日の午前中に終わって、11月の第二とかの土曜日に午後からお出かけするというのもあるのかなというような話をして、午前中が多かったのですよね。午後になったら午後に都合のいい方が多くいらっしゃると思いますので、その辺はどうでしょうか。皆さんのご意見で決めたいと思います。
○西村委員	ずっと午前中に開催していたものが前回午後になったわけですが、例えば午後に開催してほしいという意見が多かったので午後に開催することにしたとか、そういう経緯はあるのでしょうか。
○清水部会長	アンケートをとるとほとんど、午前中なら午前中で午前中のほうが出やすかったというふうに、先ほどおっしゃったようなバイアスがかかってしまって。
○西村委員	結局その時間に来られる方がいらっしゃってアンケートがあるわけですね。
○清水部会長	それですと午前中でやっていたから去年は参加して下さる方の年齢とか人数がふえたり、若い人が来てくれるということを思って、午後にやってみようということになったのかなと思います。
○事務局	そうですね、たしか若い方に来てもらうためにという話があったように思います。子育ての方とか、午前中に家事を一通り終わらせてから出るという。
○事務局	午前中にやったときのアンケート結果を今、探したところ、参加しやすかったという回答が74.5%で、午後のほうは78.8%ですので、若干割合は上がっています。自由意見の中で、

○清水部会長	何名かはわかりませんが、できれば午後という記載があった方がいらっしやったようです。 ありがとうございます。どちらに決めてもあっちがよかったと思う方はいらっしやると思いますが。
○古野委員	年に1回のことですからね。どちらにしてもそれぞれかと思えます。
○清水部会長	なので、ここで決めるということにしたいと思いますが、どうでしょうか。今回は午後1時からというのでやってみますか。ちょっと30分早めて13時から15時半ということをやってみますか。いかがでしょうか。
○山岸委員	前回午後にしたのですから、続けてまた午後にしたほうが、午後のほうがいいか午前中がいいかと検討しやすくなるのではないかと思います。1回だけで差を見るというのはなかなか難しいでしょうから。
○清水部会長	では、午後ということによろしいですか。時間を早めて12時半開場の13時開始ということによろしいでしょうか。ありがとうございます。 それで、会場はどちらがいいですか。駅から近い、どっちも近いと思いますが、開港記念会館に近いのは地下鉄の関内駅ですね。あとはみなとみらい線の日本大通りが近いかなと思います。社福のほうはJR桜木町の駅から信号を渡って、あるいは地下から行ってすぐのところですね。 どちらがいいですか。250人と400人ということですが。
○事務局	開港記念会館は2階席を開けて400人なので、1階席だけだともう少し、250よりは少なくなります。
○清水部会長	開港記念会館はちょっと柱があって見にくいのではないですか。
○事務局	そうなんです。柱がところどころにあります。
○清水部会長	そうですね。どうでしょうか。どちらが便利と思われませんか。 去年も社会福祉センターでしたので、社会福祉センターでの開催によろしいですか。では、そうさせていただきます。
○西村委員	開港記念会館の選択肢がふえた理由は何かありますか。
○事務局	会場の定員が多いということで、テーマによっては、申込者が増えることを想定し、広めの会場をと考えました。
○西村委員	それは望むところなのですけどね。
○古野委員	そうしたらテーマを先に決めますか。
○清水部会長	テーマを先に決めてからにしますか。
○西村委員	これだと400人ぐらい入るとか。
○清水部会長	どちらも押さえていただいているので、テーマによっては開港記念会館のほうでという可能性もあるということで、テーマのほうを先に決めますか。テーマは何か。ことしはぜひこれをやりたいというのはおありになりますか。
○海野委員	事務局から挙げていただいた中では、私は食品表示に興味があります。私もこの会議に出させていただくようになってから、裏側の表示を見て買わない日はないというぐらい生活が変わりまして、最近では裏側を見ると、この食べ物は大体こんな味がするのかなというところ

ろまでわかるようになりました。

やはり時代の変遷を感じていまして、昔は添加物がすごく多かったのだけど、最近は本当に、コンビニなどでも、食品の後ろを見たら何が入っているかわかるようなもの、つまり、化学系のものが少なくなってきたような印象を受けています。そういった意味では、加工食品なども一般消費者が選んでいって、だんだん化学薬品的なものが排除されていく方向になってきているような気がするので、そういう見方をもう少し勉強できて消費者が賢くなると、体にいいものが必然的に残っていくのかなということを考えたりしますので、私は食品表示について聞いてみたいと思います。

○清水部会長

ほかの方はいかがですか。去年は森田さんのほうから表示の話がありまして、全体の感想としては、森田さんのお話をもう少し詳しく長くお聞きしたかったなんていうご意見もあるみたいです。表示の問題でいかがですか。

○横田委員

今、食品表示法については、手前どもの直売所でもそうなのですが、今度、栄養成分表示が義務化というか厳格化されるので、その辺についての勉強というのは非常によろしいと思います。横文字で書かれてもいまいちぴんと来ないところがあるのですが、そういった部分も含めて皆さんに勉強していただければ非常に役に立つのかなと思います。

○西村委員

見せ方でおもしろくなるのではないかと思います。表示というところから波及して食品の添加物だったりというような形の見せ方ができれば、おもしろい題材になるのかなと思います。おっしゃるように食品表示は、こんなところにこんなものを書いてあるというような見方から始まり、そこから作り方だったり、栄養成分に対する考え方だったり、そこら辺のところうまくわかりやすく話を持っていければ、すごくおもしろいテーマかなと思います。

○清水部会長

原材料名などもたくさん入っている順に書かれていることすらご存じない方も結構いらっしゃいます。この間もラジオで子ども相談みたいなのを聞いていたら、表示ってどういうふうになっているんですかみたいな質問があって、たくさん入っているものから表示されて、例えば一番最初にお砂糖が入っていたら、お砂糖が一番たくさん入っているんだよみたいな会話があったので、表示というのはわかっているつもりでわかっていないというものもあるので、おもしろく見せていただいて、そこからいろいろなものが波及すると思います。

いかがでしょうか。ほかのご意見ある方いらっしゃいますか。特にぜひことしこれをやりたいというのがおありにならなければ、表示ということで進めてよろしいでしょうか。

○山岸委員

確かにやり方によってはおもしろくなると思います。ハウツー的な、参加した人がすぐ実用化できるような情報というのは、例えばきょう配られたこのお茶でも、品名の最後にビタミンCって書いてありますよね。普通の人にはビタミンCというと健康にいいと思いますけれども、これは目的が違いますよね。でも、表示というのはさもよさそうに表示されているということもあるよという情報は伝えたいなと思います。だから、ただ単にいいことだけではない、こういう目的で添加物というのは使われているんだよということを伝えていかないと。

○西村委員

この前、シンポジウムにいらっしゃっていた方が、添加物というと体に悪いというイメー

ジをずっと持っていたのだけれども、そういう添加物だけではないことを教えてもらったのがよかったというお話をされたりしていたので、何かしらそういうプラスになるような情報が発信できればと思います。

うちの会社で表示とか法律、社員教育をするときに、シイタケは産地表示のほかに原木とか菌床とかあるのですが、なぜ原木と菌床を表示しないといけないのか 原木と菌床は何が違うのかとか、それをちゃんとお客様に説明できるように教育をしていくわけなのですが、そういう、知っているつもりでも知らないことを取り上げて、理解してもらえるテーマがあればいいなと思います。

生産している現場と、加工しているところと、実際に買う販売店で、表示されている中身が、表示の仕方が違いますからね。その辺がわからないと、最終的な表示だけでというのだと誤解を招きます。

○山岸委員

同じ商品でも売り方によって表示しなくていいものと、パックや袋に入れたらすぐ表示が必要になるとか、同じ商品でも流れによって必要になってくるとか、そういうものもありますし。

○西村委員

お店に並ぶ前の段階がどうなっているかというのを私たちは知るすべがないので、お店に売られてくるまでの流れを知りたいですね。

○古野委員

原材料があって、その原材料を仕入れた加工会社があって、そこでどういうことが表示されて、それを売る場合にどういうふうに表示されていくか、そういう流れを、幾つかパターンで説明するとか。

○清水部会長

生の魚とかお肉とか、お弁当みたいなものの表示で、段階的にどうなっていくのか、幾つかピックアップして説明していただくとわかりやすいかもしれません。ということで、どなたかそういうことをお話ししていただけるような。

ことしも多分、まず講演していただいて、それから何人か登壇していただいてシンポジウム形式というふうになるのかなと思っていますが、それでよろしいのですよね。

そうすると、まず前段で表示について講演していただいて、その後、流通業者さんとか加工される方たち、市の職員の方にも登壇していただいて、それぞれのところの問題点とかそういうのが明らかになると。あしたから買い物するときに、きのうの話が役立つわというふうになれば理想的ですね。

では、大きくりで表示ということですが、どう見せたらいいかというのと、それから題名ですよね。まずお客さんをキャッチするためにはどのようなネーミングにしたらいいのか。シンポジウムの副題みたいなもの、その辺はいかがですか。事務局のほうで何かありますか。

○事務局

タイトルですか。誰に登壇していただき、どのような構成で意見交換するかという形によるかと思います。前回の令和元年のシンポジウムは、会場やお客さんからの質問にたくさん答えますという形式をとってしまったがために一問一答みたいになってしまって、参加者の方の感想にあったのですが、質問に一つ一つ答えるというよりは、そこから一つのテーマを導き出してそのテーマについて意見交換をするほうがよりよい情報が聞けたのかなという意

見もあり、事務局側としても参考にしたいと思いました。こういうことを気にしている人がたくさんいます、このことについてはどうでしょうかという形で振るようなやりとりもよいと思います。

ですので、今回の表示のテーマで意見交換するときに、先ほど流通の過程でそれぞれの表示の決まり事、単なる野菜でも売るときに表示もきちんと品名がなければいけないとか、先ほどのシイタケの話も、まず単品としての表示があって、それが加工品になると次はこういう表示になるということなので、生産者の方、加工業の方、あと消費者と行政、表示担当の部署がありますので、表示担当から最近の監視時の表示点検で見つかる事例ですとか、よくあるご質問とか、そういったことはお話しできるかと思います。どういう方に来てもらって、あと、切り口をどういうふうにしていくかによっても盛り上がり方はきっと違うだろうと思うので、そのあたりも皆さんのご意見をぜひお聞かせいただきたいと思います。

○清水部会長

いかがですか。最初に口火を切ってください。

○海野委員

例えば清涼飲料水がカロリーオフというのを目にした時、まずそこでキャッチーだから買おうかなと思って後ろの表示を見るとアスパルテームとかアセスルファムKなどの甘味料が、2～3種類、4種類と書かれている時には、買うのをやめます。ですが、表示の見方がわからなかったら、私はそれを買って飲んでいると思うのです。

以前、ある雑誌の記事で何種類も人工甘味料を入れるのは、普通のお砂糖には甘みの曲線があるそうなのですが、その曲線が単一の人工甘味料では出せないからだそうです。飲んだときにおいしいと人間が感じるのは、やはり砂糖に近い甘みの出し方なのだけれども、3種類、4種類入れることによって砂糖の曲線と同じになるから何種類も入れているという記事を読んだときに、なるほどと思ったのです。では、その3～4種類を1つの食べ物に入れたときの人体への影響はどうなのかという、厚労省では、一つ一つの安全性はちゃんと確保しているけれども、3つ4つ入れたときのことまでは担保していないというふうにその記事には書いてあったので、そういうこともあるんだなと思って、それ以来、私は表示を見て買うようにはしています。そんなようなこともちょっとおもしろいのかなと思ったりしました。先程のシイタケの話もちょっと聞いてみたいと思いましたし、東京電力の事故があった時に、原木栽培はいつまでも放射線量が高かったので私も菌床の方を買うようにしたとか、そういう選択ができる余地のある大事な情報なんだなと思いました。

○清水部会長

先ほど事務局からのご説明のところで、食品表示から派生して、要するに遺伝子組み換えであるとかないとか、そういうことがどういうことなのかとか、そういうこともちょっと網羅できるのかなと思うので、そのシイタケの話とか、幾つかピックアップして、原材料と加工したときと商品として出回るときに表示みたいなこと、そんなに数多くでなくていいと思うのですが、そんなふうな切り口。題が難しいですね。

○西村委員

題もそうですし、食品表示ということ考えたときに、表示をこういうふうに見ました、見方はこうでした、こういうことを踏まえてこういう商品がつくられていますというお話をしたときに、聞きに来られた方が、例えば食中毒だと、聞いて自分でもこういうところに注意しないといけないというのがあると思うのですが、そういうパワーに比べると、食品表示



を広げて、来られている方に最終的に何を訴えたいかというのが、今、お話を聞いていてどうしても見えてこなくて、最終的な着地をどんなふうにして帰っていただくか。例えば今この話を聞いていても、表示を詳細に説明して、安全・安心の不安をあおって、そういう表示が含まれていたなら買わなくなってしまうとか、そういうことでは多分ないと思うのです。見て選択する自由はもちろんあるので、こういう表示がこういう形でとか、さっきお話ししていただいたように、遺伝子組み換え商品であるとかないとかいうのはこういうふうに表示されていますという話はできると思うのですが、その話をしたときに、聞いている方は何をお土産に持って帰られるのだろうかというのが見えてこないのです。この表示がこんな感じだというのには確におもしろいと思いますし、知って得をする。あ、この商品にはこういうものが含まれているんだとか、例えば重量だったり、一番含まれているのはこれなんだとか、いろいろなことがあるとして、説明して波及させたときに、なかなか難しいなと思いながら聞いていました。

○山岸委員

私はお酒を飲むので、日本酒だったら日本酒の表示を非常に気にします。その違いは何かというと、実際、理解しないとおいしいお酒が選択できないというのがあります。純米酒だとか、本醸造だとか聞いても、何が違うのかわかっていなければ、ただ飲んでおいしいからこれでいいやということになります。体にとってはどっちがいいのかということを考えていくと、やはり本醸造じゃないやつの方がいいかなというふうになっていくわけですよ。だからその辺は、お酒だったらお酒はこういうところの表示の仕方で違いが出ています、お米だったらお米の何%、割合とかそういうのが出ているのはこういうふうに違いますが、具体的なものを取り上げて、こういう表示になっていますからこの辺を注意してくださいとか、その辺が一番ハウツー的には、油だったらどうなのということになりますし。実際、主婦や女性の方が多いでしょうから、そういったところのものから入ったほうが理解しやすいのかなと思います。

○古野委員

最初から何をというのが提示されて人が来るというほうがいいかもしれません。

○山岸委員

だから、ペットボトル一つ選ぶのでもこういうところに注意してくださいとか。次に買うときに聞いた話を役立てられることになると思うのです。

○西村委員

血糖値の高い人はここを見ろとか。

○山岸委員

そうそう。血糖値の高い人はここを注意してくださいと。ある程度、医療的なことまでということではないでしょうけど、気をつけてくださいという情報は出しやすいと思います。

○清水部会長

さっき言ったみたいに3種類ぐらいのものを取り上げて、例えばペットボトルとお弁当、何とかというふうに3つぐらい取り上げて、その表示の中で違いがわかる、そういうものを提示していただいて、そこから議論になるといいかなという気がします。

○事務局

表示は、品質事項と保健事項と衛生事項と、カテゴリーが大きく3つあります。ある食品の表示からわかる情報というのを登壇する先生に説明してもらい、その後、意見交換会で、先ほどお酒の話が出ましたけれども、あれは恐らく品質事項になるので、そういうことに関心がある人はこういう視点でこういうところを見るととても役立つということを書いてもらおう。今みたいな話が壇上で意見として来ればすごくいいし、さっきの甘味料の話は衛生事項

だということがわかったり、カロリーを気にする方は保健事項で、ここでカロリー表示がわかるんですねというようなやりとりをすると、聞いている方はなるほどねという感じになるのかなと、今の流れを聞いて思いました。

○横田委員

ちょっと思ったのは、法にのっとってやってしまうとかたい講義になってしまうと思いますから、あくまでも消費者目線の中で話をするという視点でいかないと、聞いている人も余りおもしろくないのかなというのがあるので、そこをうまく講師の方がやっていただければいいのかなと思います。

○清水部会長

どういうところに視点を当てるとおもしろく聞けるというのはありますか。

○横田委員

消費者目線というか、体にいいとか悪いという話をしているのかどうか私も判断がつかないのですが、やはり消費者の関心があるのはまさにそういうところで、その辺をお話ししてよければ当然皆さんに喜んでいただけるのでしょうけど、その辺の境界が難しいかなというのはありますね。あくまでも法律にのっとって表示をしているわけですから、問題ないといえば問題ないのかもしれませんが、そこをもう一歩突っ込んで話をさせていただけるかどうかというところですね。その辺は横浜市さんのほうでも大丈夫なのかどうか。聞いているほうは絶対そっちのほうがおもしろいと思います。

○事務局

その辺、うまくお話しただけるとしたら消費者団体さんとか、であれば割とそういう線で切り口が、前は森田さんですが、別の方をお願いしても、消費者団体とか、消費者問題をやっている方のほうがそういう目線でお話をいただきやすいのかなと。やはり行政ですと、先ほどちょっと話が出ました品質事項とか衛生事項とかというのは、もともと食品表示法が3つの法律を一緒にした経緯があるので、実は縦割りの部分が少なからずあります。なので、その話をすると余りおもしろくないので、先ほどちょっとおっしゃっていたような、食品をぽんと出してそれを切り口に、こういう視点から、こういう視点から、みたいなほうに行ったほうがいいと思うので、やはり消費者目線というところがポイントになってくるかと思います。

○清水部会長

何年前にお話しいただいた向井さんでしたっけ、お弁当の安全・安心を考えようのときに、保健福祉大学の中村先生のところの方に来ていただいて、とてもわかりやすいお話をさせていただいたのです。向井さんってまだこの大学にいらっしゃるのですか。

○事務局

確認してみます。

○清水部会長

あのときはお弁当のいろいろな安全性ということを考えようというのですごくわかりやすくお話をさせていただいたので、表示の話を向井先生がどれぐらいしていただけるかわかりませんが、このところずっと男性が多かったので、女性の方にお話ししていただいてもいいかなと。どうですか。体によい悪いになってしまうと、どうやって判断するのというふうになってしまうので、一概に白黒、よい悪いというふうになかなか割り切れるものではないと思うのです。よく言われるように、塩だっただくさんれば体によくないということもあるので、体にいい悪いというよりは、情報を得て自分はどうするかという話ですよ。これとこれを比べたら自分はどっちを選ぶの。そのために材料としてそういうお話があれば、自分の体、自分の嗜好も含めて、表示を見たときにどうやってわかるのというのが一番のポイント

トなのかなと思うので、そんな感じで幾つかのサンプルというか、そういうものを取り上げていただいて、というのでいけそうですか。

○西村委員

加工食品はここに示されているようにどんな記載があつて、ここから説明が広がっていくという感じなのですが、例えば生鮮については、ここに事例が挙げられている食品表示のところで、国内産だったら都道府県名を書かなくてはいけないとか、そういうのを説明しても余りおもしろくなくて、例えばトマトといったときに、青森県産と何々県産と何々県産があります。例えば青森県産はかたくて甘いとか、旬は6月だったりとか、要は産地表示があることに関して、私たちが何々県産というのを見るときに、その生鮮食品の持つ個人情報というか、青森県産はトマトが甘くてこうだからとか、もし特色があるのであれば、その肉や生鮮の顔というか、そういうのもちょっとおもしろいかなと思います。

あと、加工食品は割り切って表示をされているもの、添加物がどうか、そこら辺のところをもう少し掘り込んでというか、興味を持たれている添加物だとか栄養成分だとかというお話の切り口というか、そういう商品というかものによって説明する内容というか、品名と原産地を表示しなくてはいけないんですよというだけではなくて、そんな変えていくと少しおもしろい、おもしろいという表現がいいのかわかりませんが、それも選択の一つかなと思います。だから、裏の表示を見て、この内容に何が含まれているから選択するというのもあるし、産地表示をするということに関して、その産地の顔を見て選ぶという。

例えばきょうはシチューにしたいからこのがいいとか、この時期がいいとか、もしそれがわかればの話ですが、そういう話をしたら面白いのではないのでしょうか。

○山岸委員

今は産地偽装というのは少ないですか。要するに福島県産のものを他県に持って行ってそこから出荷するという。

○横田委員

今はそういうことはないと思いますけどね。

○事務局

当然それは見つければそれなりの、きちっとした対応はします。それがたくさんあるかというとなんか、ゼロかと言われるとそうではないと思いますが、私たちが見ている範囲では余りないと思います。

あとは、食品にもよると思うのです。産地によって値が大きく動く食品というのが中にはあります。単価が高い食品とか、ここの産地だから高く売れるとかというものは、そういうふうな懸念があるので、我々もそういうところには少し調査の仕方を普通のところより変えていくとか、そういう工夫をしていきたいと思っています。

先ほどお話があった例えば生鮮食品、特に野菜などはいろいろな産地で年間を通じて主力の産地が移っていくことがありますよね。そういうのが一番詳しいのは、例えば市場の卸売業者さんとか、大手のスーパーのバイヤーさんとかは、すごく詳しくご存じなのかなと思います。あと、JAさんも当然、地元横浜のものは詳しいかと思っています。いろいろな切り口があるし、今、お話になった野菜なんかは一つ、表示ということについてはおもしろいかなと思います。

○横田委員

基本的に生産履歴というのを提出していただいているので、全員ではないですが、そういうところで見える化ではないですが、生産者が一応自分で記帳しているので、農薬を何回か

	<p>けたとか、そういうのも大体わかるようになっていきます。</p>
○海野委員	<p>それは例えばスーパーなどの、自然派の野菜売り場ですと例えば散布3回とか書いてあって、ああいうのは私たちにもわかりやすいですが、そうではなくて、御社のホームページで見えるようになっていたりとか、そういうことなのですか。</p>
○横田委員	<p>消費者には直接わかりませんが、何か事故があったときにはその履歴を追いかけてという形はとっています。農協単位で管理しているのですが、生産履歴は基本的に出していただきねということで。近い将来は、そういうものを提出していないと出荷できないとか、そういう縛りができてきます。</p>
○海野委員	<p>安心ですよ。</p>
○横田委員	<p>その辺もやはりきちっとやっておかないと。</p>
○清水部会長	<p>時間的な制約があるので、たくさん種類の表示について皆さんに情報提供できるかといったらそうでもないの、もうちょっと絞ったほうがいいかなと思います。生鮮野菜についてまず壇上に上げるかどうか。</p>
○西村委員	<p>きょうはこんな感じで食品表示を進めていきますか。こういうイメージというのをきょうお話しさせていただいているので、例えば横浜市さんのほうでさっきお話をされていた、この方だったらいいんじゃないかという方にお話を持っていくときに、こんなたてつけだったらきょう出たような話が形にできるのではないかと、例えばこういうことだったらこんな感じのお話をというようなことが聞ければありがたいなと思います。</p>
○清水部会長	<p>きょうはどの辺までを決めておいたらいいですか。検討部会はあと1回あるのですか。</p>
○事務局	<p>そうですね。もう少し突っ込んだ話を、きょうはどちらかという方向性とあと、具体的な人をこれから考えるに当たって、今のざっくりしたイメージをそれぞれの委員の皆さんからお聞きできていますので、その辺で調整させていただいて、もう少し形にしたものを次回お示しして微調整していきたいと思います。大丈夫ですか。</p>
○清水部会長	<p>言い残したことはないですか。これだけは言っておきたいとか、これだけはぜひ網羅してほしいというのはありますか。</p>
○西村委員	<p>シンポジウムが実際に開催されるわけですが、男女、年齢でばらつきというか偏りと言ったほうが正しいかもしれませんがあって、前もお話があったように、できるだけ若い方にも来ていただきたいとかそういうのがあって、すごく頑張ってもらってチラシも4000枚とかまいていただいたのですが、大きな変化はなかった。</p>
○清水部会長	<p>永遠の課題ですよ。</p>
○事務局	<p>実は前回、広告を打ったのですが、それでも難しかったかなと思うので。</p>
○西村委員	<p>シンポジウムということに興味がないのか、それとも、本当に潜在しているテーマに対して掘り起こしができていないのか、どっちかわからなくて、こんなタウンニュースとかもたくさんやっていただいたりして、申込人数が250人と聞いたときにはすごく効果があったんだなと思ったのですが。</p>
○清水部会長	<p>市の広報の中にもうちょっと枠があるといいなというのは毎回思うのですがね。</p>
○事務局	<p>あれは本当に枠が全然、割り当てが、いろいろな事業をやっているの、市の広報は本当</p>

	<p>にもう最後の押さえにしておいて、タウンニュースとかのほうで地域で見ている方が多いかなと思って、ちょっと区を絞りましたけれども広告を打ちました。</p>
○西村委員	<p>広告を打たれてチラシも配布されて、それを見て応募される方は。</p>
○清水部会長	<p>タウンニュースは6.2%です。</p>
○海野委員	<p>その他は何ですか。</p>
○事務局	<p>チラシと、その他は多分、ヘルスメイトさんですね。ヘルスメイトさんは最近、周知するとかかなり皆さんお仲間同士で来ていただけたりするのです。やはり食事にすごく関心の高い層なら間違いないので、率先して。</p>
○古野委員	<p>1600人とか人数も多いですから。最近は研修に結構、力を入れています。各区で毎月1時間程度ですけどやっていますので、そういう意味で研修となるとみんなこぞって。ただ、全員普通の主婦ですから。</p>
○海野委員	<p>私は小学校にボランティアに行っていたことがあって、ああいうところの掲示板に1枚ぺらっと張ってもらおうとか、そういうのはできないのですか。横浜市立の小学校とか中学校とか。</p>
○清水部会長	<p>前にアレルギーのときには張っていただきました。</p>
○海野委員	<p>そうですか。もうされているんですね。</p>
○事務局	<p>前は教育委員会の学校栄養士業務連絡会というところでチラシを300枚ぐらい配っています。栄養士さん向けにです。掲示依頼も学校に1枚ぐらいだったら多分できるかなと思います。調整すれば何とか。</p>
○海野委員	<p>そうすると若い方も行くかなとか…。</p>
○古野委員	<p>それこそ関心を引き出すようなタイトルというか。</p>
○清水部会長	<p>そう。チラシがね。</p>
○古野委員	<p>それですよ。そこで食品表示がどうかということがどんと出てくるとちょっと、楽しく自分のためになるというような言葉がけがあるといいですよ。</p>
○清水部会長	<p>ツイッターもゼロというのは何か理由はあるのでしょうか</p>
○事務局	<p>SNSもそれほど、行政が発信するだけでは限界があると思います。</p>
○山岸委員	<p>年齢層が高いですから。</p>
○清水部会長	<p>でも、10～20代が1人いらしていたんですね。もうちょっとこういう、ツイッターとかフェイスブックとかそういうので若い人に知ってもらって、参加してくださる方が少しずつでもふえていくといいのかなと。すごくいい取り組みをしていると思うのです。小さいお子さんや学齢期の子がいらっしゃるところに、本当にすごくいい情報をたくさん発信しているのに、なかなかそこにフィットしていかないというのが残念ですよ。市の広報でもう少し、カラー刷りでぽんと出してもらえようかなといいかなと思います。</p>
○事務局	<p>広告の打ち方も消費者のターゲットをもう少し絞り込むと、例えば子育て世代向けに離乳食の表示とか、未就学児がお砂糖をとり過ぎて虫歯にならないためとか。逆に高齢者だったら、ひとり暮らし高齢者でカルシウムや鉄分をとるにはとか、そういうターゲットを絞るというやり方もあるかもしれませんが、それで応募が少なかった場合のことも考える必要は</p>

	あると思います。今までは幅広く、誰が聞いても参考になるようなというのでやってきている傾向はあります。
○清水部会長	とりあえず人数を集めましょうみたいなね。その辺でちょっとターゲットを絞って、やはり広告ですかね。キャッチコピーと。
○西村委員	離乳食のお母さん世代はとても勉強していると思います。
○清水部会長	関心もあって。ただ、なかなか来てくれない。
○古野委員	会場まで出てくるという基本的な問題があります。近いところだといいのですが、遠いとなかなか難しい。
○事務局	地元の福祉保健センターだったら来られるかもしれませんが。
○古野委員	やはり区役所ぐらいまでかなという。
○海野委員	若い方は恐らくこういうところに来るよりは自分でネットからどんどん情報をとっているような気がします。
○古野委員	離乳食講座なんかも余り多くはないですよ。妊婦さんの教室とかやっても少ないですね。
○清水部会長	ただ、ネットで調べると、すごい情報があふれているわけじゃないですか。自分が調べたところに特化していってしまうと、ちょっとアンバランスになるかなという。
○古野委員	だから、そこを選ぶ力をつけるために、こういうのを聞いていただきたいですよ。
○清水部会長	もうちょっとこの辺の情報をきちんと選べるような。
○古野委員	選べる力をつけるという意味でのね。
○清水部会長	そう。ちょっと怖いところがありますものね。ネットで調べて、あ、こんな話だったの？というふうになってしまうのはちょっとね。
○古野委員	それがすごく拡散してしまいますからね。思い込んでしまって。
○清水部会長	では、そろそろまとめに。何か言い残したことはございませんか。これだけというのは大丈夫でしょうか。
○事務局	一応この回でテーマの漠然とした方向性が出て、例年ですとコーディネーター役とパネリストまでは決めていただいていますので、この部会から出していただければと思います。
○清水部会長	コーディネーターと登壇される方。前は登壇した方が多くて時間が短かったといった意見もありましたよね。どうなのですか、4人ぐらいに絞ったほうがいいですか。登壇される方。まず市の職員の方には出ていただきますよね。
○事務局	食品表示ということですので、食品衛生課に表示専門でやっている係長がいますので、一応その者に登壇させようと思います。
○清水部会長	はい。それと消費者目線ということなので、消費者として登壇していただくという。
○海野委員	登壇されたことのない方が出られたほうが新しい切り口になるのかなと。
○清水部会長	西村さん、たまには消費者目線ということで登壇していただけないか。
○西村委員	お話を聞いていても、どちらかというと私たちはやはり事業者目線でものを見てしまうので、ちょっと難しいと思います。
○事務局	先ほどお弁当の話が何回か出ていますので、お弁当の製造者サイドはこちらで探してみま

	<p>す。事業者さんですね。表示という視点で市内のお弁当製造業者さんを探してみようかなと。あとは販売のところがあると、ちょっと登壇者はふえてしまいますが、事業者さんとしてはいいのかなと。</p>
○清水部会長	<p>西村さん、その立場はいかがですか。</p> <p>消費者の方に直接対応していらっしゃるわけではないかもしれないけれども、消費者のいろいろな質問とかそういうのを経験されているかなと。</p>
○西村委員	<p>さっき出たお弁当屋さんって加工という感じですかね。</p>
○事務局	<p>そうですね。加工とか製造とかそちらの視点で。</p>
○西村委員	<p>ということであれば、私というよりは、うちの会社だったり横田さんのところだったり、いわゆる生鮮食品を扱っているというか、そういう人に登壇してもらうという形はどうでしょうか。</p>
○横田委員	<p>私どもでは、ダイエーさんというよりも農家の方が手づくりで自分のところで加工所を持ってやっている人が多いんですね。当然、企業に依頼してつくっているところもあるのですが、全体的な比率からすると個人の農家の方が、例えば漬物ですとか、そういったものを加工したりしているケースが多いので、そうなってくるとなかなか難しいかなというのが正直なところですよ。</p>
○西村委員	<p>商品はJAさんのほうが多分いいと思います。人数的には4人でというのは大丈夫ですか。</p>
○事務局	<p>あと、基調講演をしていただく方も入るともう少し人数がふえてしまいますが、それぞれ切り口はいろいろあったほうがいいと思うので、これくらい的人数は、消費者代表、行政、あと事業者が販売のところ、今回生鮮ということですから生鮮に少し寄った販売というところと、お弁当などの加工とか製造という視点のところ、割とバランスはとれると思いますし、先ほどおっしゃっていたような、1つの食品をぽんと置いたときにいろいろな視点から表示のことをお話できるかなと思います。</p>
○西村委員	<p>では、持ち帰らせていただきます。</p>
○清水部会長	<p>できればこの委員さんでぜひ。</p>
○西村委員	<p>誰をとこのを持ち帰らせていただいて。</p>
○海野委員	<p>個人的には横浜の農業に興味があって、JAさんがせっかく委員でいらっしゃるの、キャベツとか小松菜とか結構生産量が多いですよ、はま菜ちゃんとか…。横浜ブランドという意味ではどういう取り組みをされているのでしょうか。</p>
○横田委員	<p>特別なことはしていないのですが、やはり地産地消という部分では安心・安全という見える化してやっていかないと、消費者の方が不信になってしまう部分もあると思いますから。その辺は先ほどお話ししたように農薬などもそうですし、どこの農協でもやっていると思いますが、やはり安心・安全を第一にというのはどうしても。ただ、値段というところでも量販店にはかなわないところはあると思います。</p>
○海野委員	<p>フードマイレージでいうと安く買えるはずですが。</p>
○清水部会長	<p>税金も高いですけどね。あと決めることは。</p>

○西村委員	時間割は前回と同じような感じですか。
○事務局	基調講演で、前は実は相当部会の中でシンポジウムの時間をとということで1時間以上とったつもりなのですが、少し延長もしたので1時間以上はとれたと思うのですが、パネルディスカッションのそれぞれのパートも基調講演に入れて1時間弱におさめた感じなので、かなりせわしなかったです。それはなるべく、シンポジウムの時間を可能な限りたくさんというご意見のもと、やったのですが、ちょっと無理があったかなというのが正直なところですので、基調講演は一人であれば1時間ぐらいとれば十分かなと思いますので、残りをパネルディスカッションにして、説明もしながらのパネルディスカッションであれば1時間ちょっとぐらいですかね。
○清水部会長	質問は、前は会場から。
○事務局	事前にいただいたものと会場からとったものと両方やりました。当然、全部はできなかったなので、なるべく時間どおりというご意見も確かに出ていますので、時間はやはり区切ったほうがいいかなと思っています。
○清水部会長	そうすると、事前に電話で予約された方に質問を、何か知りたいことはあるかというのと……
○事務局	そうですね、事前に聞いて、あと当日、会場でも手を挙げていただく感じですかね。
○清水部会長	手を挙げていただきますか。
○事務局	前は、前は真ん中の休憩時間に集めたのですが。
○清水部会長	ペーパーで。
○事務局	はい。結構それも時間がかかってしまうのと、全部それに答えることは無理なので、代表的な多かったものを中心ということにはなるでしょう。余り広くやるよりは掘り下げるほうが多分、お話としてはおもしろくなっていくのかなと思います。
○西村委員	シンポジウムとかのときに、事前に質問を受けると、ある程度QAというかかたまりがどうしてもできてくるので、例えばこの質問だったら誰という感じで振り分けて、おおむねの回答とかある程度QAを作成しておいて、質問を受けた時に、このご質問はこんな感じだというようにコントロールした後に会場からという感じでやると割とスムーズだと思います。1人目の人が手を挙げるのは大変だと思いますが、そうしないと会場で集めた質問に対して的確な回答をするのはなかなか難しいですし、パネリストの方たちの意見交換みたいな形になって時間が長くなってしまいますので、できるだけ来られた方とコミュニケーションをとれるようなパターンとしたらそういう方法もありかなと思います。
○清水部会長	会場で手を挙げていただくと、ご自分の意見をおっしゃる方が結構いらっしゃって質問までなかなかたどり着かなくて。そうすると、人数はかなり制限をされてしまうので、そのところがちょっと難しいところではあります。
○事務局	事前に質問は、先ほど西村委員がおっしゃったように、ある程度取りまとめて、回答するほうも、複数の視点から回答ができるようなものであれば複数の視点から回答して、この立場からだとかこういう回答だけど行政からだとかいう回答だとか、それぞれ視点が違った回答もありなのかなと。なるべく内容が深まればそれはそれで会場の理解も深まると思います



	<p>ので、そういうものを例えば3～4間用意しておいて、その後ということであれば、逆に言うとも大体その場で出たことは質問として出にくいのでそれ以外になるとか、あとはその流れに沿った質問になっていくとかあるかと思しますので、運営としてはやりやすいのかなと思います。</p>
○清水部会長	<p>あとは何かありますか。</p>
○事務局	<p>コーディネーターと消費者と、生鮮品を扱うのがJAさんかダイエーさんかというところですね。その3つですね。</p>
○西村委員	<p>生鮮のところは個別に調整させていただいていいですか。</p>
○清水部会長	<p>では、連絡をさせていただいて。</p>
○西村委員	<p>持ち帰って生鮮担当にどんな感じか感触を見て相談させていただいてよろしいですか。</p>
○事務局	<p>はい。では、どちらかということ。ありがとうございます。</p>
○清水部会長	<p>ほかに何か。</p>
○事務局	<p>コーディネーターは決められないですか。</p>
	<p>ぜひきょう決めていただけると。</p>
○西村委員	<p>どうしてもきょう決めないとだめなのですか。</p>
○事務局	<p>次回のリスコミ部会が6月で、そこでほぼ確定させるような形ですが、本番は11月なので、6月ということでも大丈夫です。</p>
	<p>決めるのは、コーディネーター、消費者、事業者ですかね。事業者は、ご推薦いただければ、例えば会社の中の別の方でも全然問題ないと思います。コーディネーターと消費者は、この部会の中からのほうがよろしいかと思えます。</p>
	<p>例年ですとここで決めて3月の本会議のときに、第2回のリスコミ部会の報告をするのですが、役割分担は調整中ですという形にしますか。</p>
○西村委員	<p>ちょっと持ち帰らせていただいていいですか。聞いてみます。</p>
○清水部会長	<p>3名の方、よろしくお願いします。</p>
○事務局	<p>会場はいかがいたしましょうか。社福センターと開港記念会館と。</p>
○清水部会長	<p>どうですか。食品表示という話になってたくさんの人に来てもらえそうですか。開港記念会館でもいいですけど、ちょっと使いにくいかなと。</p>
○事務局	<p>古い歴史的な建物で、2階から見おろすような感じなんですね。2階席をあげなければ社会福祉センターのほうが大きいかないかなという感じがします。</p>
○清水部会長	<p>壇がすごく高いですよ。</p>
○古野委員	<p>入るのに階段を上らなければいけない。結構あの階段が急なのですよ。狭くて。</p>
○山岸委員	<p>高齢者が多いとちょっと。</p>
○事務局	<p>そうですね。そうすると、社会福祉センターのほうがバリアフリーで。では、社会福祉センターでよろしいですか。</p>
○清水部会長	<p>はい。お願いします。あとは大丈夫ですか。では、その辺は、本会議のときには調整中ですという言葉で、大体の内容は決まりましたので。</p>
○事務局	<p>では、第3回の本会議なのですが、3月23日15時からで既に通知はさせていただいている</p>

<p>○清水部会長 ○事務局 ○清水部会長</p>	<p>のですが、実は昨今の新型コロナの関係で今、市のイベント等はかなり中止もしくは延期の措置をとり始めておまして、それに合わせてこういったオフィシャルな会合も徐々に見直しの動きが出ています。それで、当然、部会長の中村先生と最終的にはご相談ということになります。きょうも国のほうから基本方針が先ほど出ていますので、それを踏まえて考えたいと思います。いずれにしろ済みません、まだ流動的なので、ご連絡は差し上げますが、場合によると開催自体が状況からできなくなるということだけご承知おきいただければと思います。</p> <p>では、以上できょうは全て。一応調整中ということで。 また個別に調整させていただきたいと思います。 よろしくお願いします。本日はお疲れさまでした。</p>
<p>資 料 ・ 特記事項</p>	<p>1 食の安全・安心推進横浜会議リスクコミュニケーション部会委員名簿 2 令和2年度 食の安全を考えるシンポジウム（案） 特記事項 なし</p>